

英文學論叢

第 69 号

佐伯 恵子 教授 退職記念号

目 次

〔研究論文〕

- カズオ・イシグロの境界の越え方
..... 莊 中 孝 之 (1)
- “A Boy in France” に秘められた「詩」
—J.D. サリンジャーの文学的実験について—
..... 谷 光 生 (13)
- A Qualitative and Quantitative Description of L2 Skills
Development in Japanese Learners of English
..... John Campbell-Larsen (41)

〔実践報告〕

- Was Shakespeare a Time Traveller?
..... Marianne Kimura (71)

〔研究ノート〕

- That's So Sad, but I'm Not Sad about It. と
その日本語対応表現について
..... 谷 光 生 (83)
-

京都女子大学文学部
英語文化コミュニケーション学科

2025

佐伯 恵子教授 略歴及び著作目録

学歴

1977/3	京都府立東宇治高等学校卒業
1977/4	奈良女子大学文学部英語・英米文学科入学
1981/3	奈良女子大学文学部英語・英米文学科卒業
1981/4	奈良女子大学大学院文学研究科（修士課程）英文学専攻入学
1983/3	奈良女子大学大学院文学研究科（修士課程）英文学専攻修了
1983/4	奈良女子大学大学院人間文化研究科（博士課程）比較文化学専攻入学
1987/3	奈良女子大学大学院人間文化研究科（博士課程）比較文化学専攻単位取得満期退学

学位

2009/12	博士（文学）
---------	--------

職歴

1983/4 - 1987/3	大阪女学院短期大学非常勤講師
1984/4 - 1986/3	大阪経済法科大学非常勤講師
1986/4 - 1987/3	平安女学院短期大学非常勤講師
1988/4 - 1994/3	姫路獨協大学非常勤講師
1989/4 - 1994/3	賢明女子学院短期大学非常勤講師
1994/4 - 1996/3	広島経済大学非常勤講師
1996/4 - 1999/3	県立広島女子大学国際文化学部国際文化学科講師
1999/4 - 2005/3	県立広島女子大学国際文化学部国際文化学科助教授
2003/8 - 2004/3	the English Department of Georgetown University's Graduate School にて客員研究員として在外研究を行う
2005/4 - 2007/3	県立広島大学人間文化学部国際文化学科助教授
2007/4 - 2010/3	県立広島大学人間文化学部国際文化学科准教授
2010/4 - 2012/3	県立広島大学人間文化学部国際文化学科教授
2012/4 - 2024/3	京都女子大学文学部英文学科教授
2012/4 - 2026/3	京都女子大学大学院文学研究科博士前期課程・後期課程英文学専攻指導教授（退職予定）
2024/4 - 2026/3	京都女子大学文学部英文学科・英語文化コミュニケーション学科特任教授（退職予定）

研究業績

学位論文

- 「T. S. エリオット詩劇と共同体再生への道筋——世俗的日常世界と宗教的世界の境界を挟んで——」2009/12/24 取得 奈良女子大学大学院

著書

- 1 「『一族再会』から『カクテル・パーティ』へ——日常的な“関係”の選択をめぐる——」『尾形敏彦・森本佳樹両教授退官記念論文集』共著 山口書店 1985/2
- 2 「負の自己像を前にして——ノストローモのジレンマ」『隠された意匠——英米作家のモチーフと創造——』共著 南雲堂 1994/3
- 3 「病める妻——アーサー・ミラー『最後のヤンキー』の場合——」『女性と文学』共著 英宝社 2000/11
- 4 「17年後の帰郷がもたらしたもの——T.S. エリオット「風景詩」を読む——」『アメリカ帝国と多文化社会のあいだ——国際比較文化フォーラム 21 世紀』共著 開文社出版 2003/12
- 5 「日常世界への回帰——『一族再会』から『カクテル・パーティ』へ——」『ポッサムに贈る 13 のトリビュート——T. S. エリオット論集』共著 英潮社 2004/10
- 6 「詩劇——共同体の再生をめざして」『モダンにしてアンチモダン——T. S. エリオットの肖像』共著 研究社 2010/11
- 7 『T. S. エリオット詩劇と共同体再生への道筋』単著 英宝社 2012/2
- 8 「エリオットの中のアンドロギュノス的なもの」『四月はいちばん残酷な月——T. S. エリオット『荒地』発表 100 周年記念論集』共著 水声社 2022/12

学術論文

- 1 「タイレシアスの視点——エリオットの詩におけるその意味と機能」*Possum* 創刊号 (T. S. Eliot の会) 1983/5
- 2 「エガス的な‘one single world’をめざして——T. S. Eliot: *The Confidential Clerk* 試論」『関西アメリカ文学』第 22 号 (日本アメリカ文学会関西支部) 1985/11
- 3 「理想の家族像——T. S. エリオット『老政治家』の場合」『英語学英米文学論集』第 13 号 (奈良女子大学英語英米文学会) 1987/3
- 4 「詩から詩劇へ——T. S. Eliot の 1930 年代前半」『アメリカ文学研究』第 25 号 (日本アメリカ文学会) 1989/2

- 5 「‘After Such Knowledge, What Forgiveness?’ —— “The Hollow Men” における Kurtz 的世界との訣別」日本英文学会『英文学研究』第 68 卷 1・2 号（日本英文学会）1992/1
- 6 「Razumov の告白—— Joseph Conrad: *Under Western Eyes* 試論」『英語学英米文学論集』第 19 号（奈良女子大学英語英米文学会）1993/3
- 7 「幻の三部作構成—— Marlow の Jim 観を縛っているもの——」『英語学英米文学論集』第 20 号（奈良女子大学英語英米文学会）1994/3
- 8 「もうひとつの曖昧性—— Nathaniel Hawthorne: “Young Goodman Brown” についての一考察——」『広島女子大学国際文化学部紀要』新輯第 3 号（県立広島女子大学）1997/3
- 9 「The Frontier を越えることと越えないこと—— T. S. Eliot: *The Family Reunion* の場合——」*T. S. ELIOT REVIEW* 第 8 号（日本 T. S. エリオット協会）1997/11
- 10 「Arthur Miller: *The Crucible* における John Proctor の二つの罪意識と良心の物語」『広島女子大学国際文化学部紀要』新輯第 6 号（県立広島女子大学）1998/12
- 11 「“Prufrock” 以上 “Gerontion” 未満—— *Inventions of the March Hare* における認識の瞬間」*T. S. ELIOT REVIEW* 第 12 号（日本 T. S. エリオット協会）2001/11
- 12 「病める妻—— Arthur Miller: *Broken Glass* の場合——」『広島女子大学国際文化学部紀要』新輯第 10 号（県立広島女子大学）2002/3
- 13 “Return Home after 17 Years: Reading T. S. Eliot’s ‘Landscapes’” 『広島女子大学国際文化学部紀要』新輯第 13 号（県立広島女子大学）2005/3
- 14 「否定された殉教劇—— T. S. エリオット『大聖堂の殺人』考——」『広島女子大学国際文化学部紀要』新輯第 13 号（県立広島女子大学）2005/3
- 15 「「モラリスト」エリオットの劇場デビュー——「共同体」の再生を目指して——」*T. S. ELIOT REVIEW* 第 16 号（日本 T. S. エリオット協会）2005/10
- 16 “Return to the Ordinary World: from *The Family Reunion* to *The Cocktail Party*” *Yeats Eliot Review* Fall-Winter 2006 Volume 23, numbers 3&4 2006 Fall-Winter
- 17 「理想の家族像—— T. S. エリオット『老政治家』における到達点 ——」『県立広島大学人間文化学部紀要』第 3 号（県立広島大学）2008/3
- 18 “More than ‘Prufrock,’ Less than ‘Gerontion’: The Moment of Knowledge in *Invention of the March Hare*” *Yeats Eliot Review* Summer 2008 Volume 25, number 2 2008 Summer
- 19 「二つの世界を結んで生きる—— T. S. エリオット『秘書』——」『県立広島大学人間文化学部紀要』第 4 号（県立広島大学）2009/3

- 20 日本 T. S. エリオット協会第 22 回大会シンポジウム報告「60 年目の『カクテル・パーティ』再読——『カクテル・パーティ』の位置づけ」*T. S. ELIOT REVIEW* 第 21 号（日本 T. S. エリオット協会）2010/11
- 21 「諷刺と警告の書——アーサー・ミラー『復活ブルース』——」『県立広島大学人間文化学部紀要』第 6 号（県立広島大学）2011/2
- 22 「*Finishing the Picture* で劇を書き終える——Arthur Miller 最晩年の劇——」『英語英米文学論輯』第 13 号（京都女子大学大学院）2014/3
- 23 「混沌の自画像——T. S. エリオットの殉教詩——」『英文学論叢』第 58 号（京都女子大学英文学会）2014/12
- 24 「「女嫌い」「女殺し」の系譜——T. S. エリオット作品の女たち——」『英文学論叢』第 60 号（京都女子大学英文学会）2016/12
- 25 「Fanny Marlow の物語——もうひとつの“Tom and Viv”——」『英文学論叢』第 62 号（京都女子大学英文学会）2018/12
- 26 「Charles Williams と T. S. Eliot の殉教劇——*Thomas Cranmer of Canterbury* を中心に——」『英文学論叢』第 63 号（京都女子大学英文学会）2020/12
- 27 「Djuna Barnes, *Nightwood* の 2 つの世界——T. S. Eliot の「序文」の効用——」『英文学論叢』第 65 号（京都女子大学英文学会）2021/12
- 28 「T. S. エリオットの詩劇『寺院の殺人』の変遷——大聖堂から劇場、映画館へ——」『英文学論叢』第 68 号（京都女子大学英文学会）2024/12

学会発表・シンポジウム

- 1 「T. S. Eliot の詩劇——『一族再会』と『カクテル・パーティ』について」第 10 回奈良女子大学英語英米文学会 1981/11/23
- 2 「語り手の機能及び詩人との関係——『荒地』を中心として」第 11 回奈良女子大学英語英米文学会 1982/11/23
- 3 「*The Cocktail Party* における〈関係〉の選択——Edward と Lavinia の場合」第 16 回英語科大学院生研究懇談会 1984/1
- 4 「理想の家族像——T. S. エリオット：『老政治家』の場合」日本アメリカ文学会関西支部例会 1986/11
- 5 「詩から詩劇へ——T. S. Eliot の 1930 年代前半」第 26 回日本アメリカ文学会全国大会 1987/10
- 6 「Razumov の告白——Joseph Conrad: *Under Western Eyes* 試論」第 20 回奈良女子大学英語英米文学会 1991/11/23

- 7 「*The Family Reunion*: the frontier を越えることと越えないこと」第9回日本T. S. エリオット協会全国大会 1996/11/10
- 8 「『荒地』再生——新たな受容をめざして——」第10回日本T. S. エリオット協会全国大会 1997/11/8
- 9 「*Inventions of the March Hare* をめぐって：認識の瞬間——“Prufrock” 以上 “Gerontion” 未満」第13回日本T. S. エリオット協会全国大会 2000/11/3
- 10 「“Prufrock” 以上 “Gerontion” 未満——*Inventions of the March Hare* における認識の瞬間」第30回中・四国アメリカ文学会大会 2001/6/16
- 11 「『モラリスト』T.S. Eliot の演劇デビュー—— 野外劇 *The Rock* から見えてくるもの——」第44回日本アメリカ文学会全国大会 2005/10/15
- 12 シンポジウム「60年目の『カクテル・パーティ』再読」第22回日本T. S. エリオット協会全国大会 2009/11/7
- 13 「*Finishing the Picture* で劇を書き終える」第50回日本アメリカ文学会全国大会 2011/10/8
- 14 「Fanny Marlow の物語——もうひとつの “Tom and Viv” ——」第30回日本T.S. エリオット協会全国大会 2017/11/12

翻訳・評釈

- 1 「ユーモレスク」（訳・評釈）「宴客のための寓話」（評釈）*Possum* 第4号（T. S. Eliot の会）1986/12
- 2 「アフリカで死んだインド人たちへ」（評釈）*Possum* 第6号（T. S. Eliot の会）1990/4

講演

- 1 「時代を映す少女たち——『若草物語』から『千と千尋の神隠し』まで——」岩国市中央公民館 男女共同参画講座「いきいきセミナー」2004/11/4
- 2 「お伽話の向こうに時代が見える——ディズニーのプリンセス・ストーリーを中心に——」広島県女性会議「第2期エソールひろしま大学応用講座」入学記念講演会 2008/4/5
- 3 「人が林檎を手にした時」ひろしま美術館・県立広島大学連携講座『りんごの秘密』第2回 2008/5/17
- 4 「お伽話の向こうに時代が見える——ディズニー・アニメを中心に——」県立広島大学高大連携公開講座「人間文化学への招待——国際文化学科で何を学ぶか

(A) ——」2008/8/19

- 5 「時代を映す鏡——ハリウッド映画の中の男と女 ——」 県立広島大学高大連携公開講座「男と女」2010/8/17
- 6 「ポッサムおじさんの『キャッツ』の世界——英語で読むからこそわかること——」 京都女子大学英文学科春季公開講座 2012/5/17
- 7 「T.S. エリオットの詩劇『寺院の殺人』の変遷——大聖堂から劇場、映画館へ——」 京都女子大学英文学科秋季公開講座 2023/11/16

その他

- 1 「作家の足跡 vol.1 T.S. エリオット①：エリオットの生涯をたどる」 劇団四季会誌『ラ・アルプ』 vol.383 2017/1
- 2 「作家の足跡 vol.2 T.S. エリオット②：エリオットが紡いだ詩の世界」 劇団四季会誌『ラ・アルプ』 vol.384 2017/2
- 3 「作家の足跡 vol.3 T.S. エリオット③：エリオットの詩劇——穏やかな晩年へ——」 劇団四季会誌『ラ・アルプ』 vol.385 2017/3
- 4 「Dylan Thomas 草稿」解説 京都女子大学創基 100 周年記念：特別企画展観「京女 100 年の至宝」2020/11-12

科研費

- 1 「エリオット詩劇と理想の家族像への道筋——宗教的世界と世俗的世界の境界を挟んで」科学研究費基盤研究 C（基盤研究（C）一般）2008-2010
- 2 「T.S. エリオット詩劇と共同体再生への道筋」科学研究費補助金（研究成果公開促進費）2011

所属学会

- 1 奈良女子大学英語英米文学会
- 2 日本 T.S. エリオット協会（委員会役員 2004/4-2024/3、*T.S. ELIOT REVIEW* 編集委員 2008/4-2016/3、事務局長 2016/4-2020/3）
- 3 日本アメリカ文学会（日本アメリカ文学会関西支部編集委員 2015/4-2017/3）
- 4 日本英文学会
- 5 京都女子大学英文学会（学会長 2020/4-2022/3）

『英文学論叢』執筆（投稿）規程

2024年12月13日改正

1. 投稿資格

投稿者は、1) 京都女子大学文学部英語文化コミュニケーション学科の現職教員、2) 京都女子大学大学院文学研究科英文学専攻を修了・退学した者、または3) その他、編集委員会の認めた者とする。

2. 投稿内容

投稿原稿は言語・文学・文化・教育に関する未刊行のものに限る。なお、口頭で発表された研究は、その旨を明記すれば、投稿を可とする。

3. 投稿原稿の種類および投稿原稿の数

投稿原稿は、研究論文や研究ノート、実践報告、翻訳などとする。投稿原稿数については特に上限を定めない。これらに関して問題が生じた場合は、編集委員会で審議する。

4. 投稿原稿の書き方

- 1) 使用言語は日本語ないし英語とし、分量については、特に定めない。ただし、分量に関して問題が生じた場合は、編集委員会で審議する。
- 2) 細かな書式については、原則としてMLA方式に則る。ただし、個別の研究領域での一般的な書式に準じてよい。
- 3) 注は脚注とし、文献は本文のあとに置く。
- 4) 投稿原稿の冒頭には題目のみを記し、投稿者の氏名や所属、メールアドレスを記載しないこと。投稿者の氏名、所属、メールアドレスは、別紙に記すこと。

5. 投稿の申込、締切、方法

- 1) 投稿者は9月30日までに仮題目と予定頁数を添えて、編集委員会にEメールにより申し込む。
- 2) 投稿締切日は後日、編集委員会から連絡する。
- 3) 投稿原稿および氏名・所属・メールアドレスを記した別紙は、デジタルデータとしてEメールにより編集委員会に提出する。

6. 採用・不採用の決定、校正、抜き刷り、著作権

- 1) 投稿原稿の採否は査読委員の審査にもとづき、編集委員会によって決する。採用が決定した後、査読委員により修正が必要とされた箇所を修正し、最終原稿として提出すること。
- 2) 最終原稿の提出締切は12月7日。最終原稿提出後の訂正は原則として認めない。
- 3) 執筆者による校正は再校までとし、誤植の訂正程度にとどめること。
- 4) 執筆者には抜き刷り30部が無料配布されるものとする。
- 5) 掲載された原稿は、その著作権の複製権・公衆送信権を京都女子大学文学部英語文化コミュニケーション学科および京都女子大学に許諾するものとする。ただし、著作権の移動はなく、著者は複製権・公衆送信権の両方もしくは一方への許諾をいつでも取り消すことができる。なお、掲載された原稿は、京都女子大学学術情報リポジトリサーバで公開することがある。

Notes for Contributors to *English Literature Review*

1. Eligibility

Submissions will be accepted only from 1) current members of the Department of English Language, Communication and Cultures, the Faculty of Letters, Kyoto Women's University, 2) graduates of the Department of English Studies, the Graduate School of Letters, Kyoto Women's University, or 3) others approved by the editorial board.

2. Contents of Submission

The submission shall be an unpublished study related to language, literature, culture, and education.

Papers that have previously been presented orally can be submitted provided that that fact is made clear.

3. Types and Number of Submitted Manuscripts

Submitted manuscripts include research papers, research notes, practical reports, and translations. There is no limit to the number of submitted manuscripts. Any problems related to manuscripts will be discussed by the editorial board.

4. Manuscript Guidelines

1) The language used is Japanese or English, and the length is not specified. If there is a problem regarding the length, it will be discussed by the editorial board.

2) The format shall be in accordance with the latest version of the MLA manual, or the format of either national or overseas academic journal.

3) Notes should be footnotes, and references should be placed after the main text.

4) Do not include the name of the contributor in the manuscript but attach a separate sheet to the manuscript with the name, affiliation, and e-mail.

5. Application, Deadline, and Method of Submission
 - 1) Applicants who wish to submit will apply to the editorial board by September 30 with a tentative title and the planned number of pages.
 - 2) The deadline for submission will be notified by the editorial board at a later date.
 - 3) Submitted manuscripts and attachments with names, affiliations, and e-mail addresses should be submitted to the editorial board in digital format by e-mail.

6. Acceptance/rejection, proofreading, offprints, copyright
 - 1) The acceptance or rejection of the submitted manuscript will be decided by the editorial board based on the review by peer reviewers. After acceptance is decided, revisions should be made and the final manuscript should be submitted.
 - 2) The deadline for submitting the final manuscript is December 7. In principle, corrections after submission will not be accepted.
 - 3) Proofreading by the author should be limited to the second proofreading and correction of typographical and layout errors.
 - 4) 30 offprints shall be distributed free of charge to the author.
 - 5) Copyrights and public transmission rights of published papers are granted to the Department of English Language, Communication and Cultures, the Faculty of Letters, and Kyoto Women's University. However, the author retains the copyright, and he or she can cancel these arrangements with the Department of English Language, Communication and Cultures, the Faculty of Letters, and Kyoto Women's University at any time. Kyoto Women's University reserves the right in certain instances to make this material (in whole or in part) available to Kyoto Women's University's electronic archives or other affiliated information repositories.

Editor's Afterword

『英文学論叢』第69号を、佐伯恵子先生の退職記念号としてお届けいたします。

佐伯先生は、奈良女子大学文学部英文学科をご卒業後、奈良女子大学大学院の修士・博士課程を修了されました。県立広島女子大学、県立広島大学を経て、2012年4月に教授として本学に着任されました。2024年3月のご定年退職後は、同年4月より特任教授として、2026年3月まで勤務を続けてこられ、長きにわたり、英文学科ならびに英語文化コミュニケーション学科、さらに文学研究科において、後人の指導・育成にご尽力くださいました。

在任中は研究助成委員、紀要編集委員、留学プログラムのチーフや学科主任、研究科専攻主任、英文学会会長などの要職を歴任されました。

ご専門分野はアメリカ文学ですが、特にT.S.エリオットについて精力的なご研究を続けられてきて、博士論文が母体となった単著『T.S.エリオット詩劇と共同体再生への道筋』を上梓なさったり、共著である『モダンにしてアンチモダン—T. S. エリオットの肖像』また『四月はいちばん残酷な月』において研究成果を公開なさったりしておられます。

佐伯先生のご厚誼・ご厚情に深謝いたしますとともに、ご健勝・ご多幸をお祈り申し上げます。

[編集委員 木村マリアン、谷 先生]

[題字 石田憲次先生]

英文学論叢 ISSN 0286-1674

印刷者	吉川宣治	発行所	京都女子大学文学部 英語文化コミュニケーション学科	編集兼 発行者	京都女子大学文学部 英語文化コミュニケーション学科	令和八年二月二十日 令和八年二月二十日	印刷 発行
印刷所	(株)吉川印刷工業所		京都市東山区今熊野北日吉町三五			英文学論叢	第六十九号
						非売品	

ENGLISH LITERATURE REVIEW

No.69

Contents

Articles

Kazuo Ishiguro's Way of Crossing Borders
..... Takayuki Shonaka (1)

The Hidden Poem in "A Boy in France" and
J.D. Salinger's Experiments in Literature
..... Mitsuo Tani (13)

A Qualitative and Quantitative Description of L2 Skills
Development in Japanese Learners of English
..... John Campbell-Larsen (41)

Practical Reports

Was Shakespeare a Time Traveller?
..... Marianne Kimura (71)

Notes and Discussions

"That's So Sad, but I'm Not Sad about It." and
Its Japanese Counterpart
..... Mitsuo Tani (83)

The Department of English Language,
Communication and Cultures
The Faculty of Letters
Kyoto Women's University

2 0 2 5